

生物多様性を目的とした運転状況について

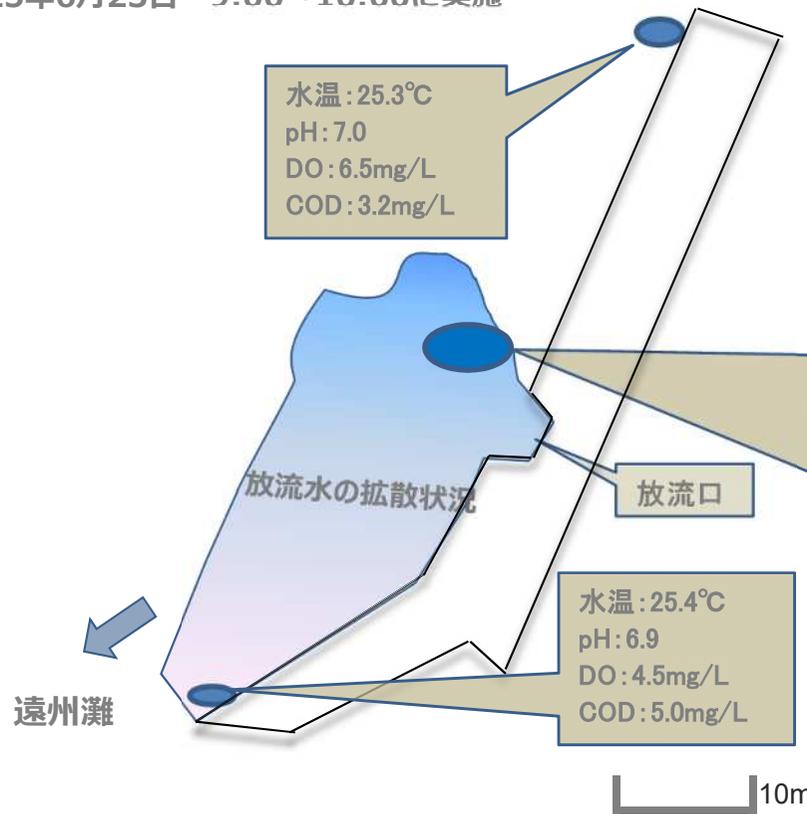
【概要】

西遠浄化センターの処理水放流先周辺は、アオウミガメの産卵地やシラスウナギの漁場として注目されています。そのため、浜松ウォーターシンフォニー株式会社では、生態系に配慮した運転および水質管理を行っています。事業期間中に5回の生物多様性診断を実施しますが、その他に、毎年1回、放流口付近の環境や生物について調査を行い、HPで公開しています。この取り組みは、「生物多様性はままつ戦略」の主旨と合致するものです。



浜松市「生物多様性はままつ戦略2024」より抜粋

2025年6月23日 9:00~10:00に実施



河川に生息する生物たち



放流口から上流



放流口から下流

- *) DOは水中に溶け込んでいる酸素濃度を示します。
- *) CODは化学的酸素要求量といい水の汚れ具合を示します。

(調査結果)

水門工事で放流口周辺は川幅が狭くなり干潮時でも川底の確認ができなかった。
放流水の拡散付近にも数十匹の魚を発見した。